

ビクトル古賀先生は神奈川県の浦賀に住んでいる。先生は若い頃、専修大学で学生に体育を教えていた。浦賀から東京の専修大学まではけっこうな距離がある。だから交通費もけっこうな金額がかかる。けど古賀先生は交通費をもらったことがない。請求書を書くのが面倒だったらしい。超人は自分の極める道以外は興味がないのかもしれない。だから超人なのだ。超人は自慢話をしない。先生の幼少期の体験は、そこいらの武術家の修行をはるかに上回るすさまじさだった。走る馬の上に立ち、馬を走らせたまま飛び降り、再び走っている馬に飛び乗る。隊列を組んで草原を駆ける馬の上に立ち上がり、コサックのナイフを一斉に高くと上げる少年たち。「サーシキビリ(剣を持て)!」。少年たちは一斉に声をあげる。おとぎ話のような少年時代を過ごし、コサック一族の戦闘訓練を受け、動乱を生き残る知恵を学んできた先生。走る馬に乗ったまま銃を撃つ訓練も10歳になる前からやっていたのだ。本物の武術家が格闘技をやったら絶対に強い。いろいろ言う武術家はたくさんいるが、格闘技をやって証明する人を知らない。



コサックの教育を受け、格闘技の世界で王者になった、たった一人の超人がビクトル古賀先生だ。先生はそんな話はしないで、今日も飄々と笑顔で暮らす。

文/平直行

ビクトル古賀(びくとる こが)
1935年、満州生まれ。日本人の父親とコサックの血を引くロシア人女性との間に生まれる。日本の敗戦を受け、10歳のときに引き揚げ。途上でソ連兵に銃撃されるなど命からがら日本に渡ると、学生時代にレスリング、柔道で頭角を現し、サンボでは41戦全勝すべて一本勝ちという超人的な記録を残した。旧ソ連より現地で英雄の証となる「スポーツマスター」の称号を授与されている。



取材場所/ビクトル古賀行きつけの居酒屋「ひさご」



僕なんて、まもなく消えますから。ゴメンね。

コサック一族に生まれたサンボの超人

ビクトル古賀

“10歳でソ連兵に銃撃されるも生き延び”

“中学生にしてプロ・ボクシング王者と対戦”

“サンボでは不滅の41連勝&オール一本勝ち”

笑顔の超人 in 「ひさご」大実況!!

聞き手/平直行 合いの手/山口日昇 構成/八木賢太郎

超人と呼ぶには、あまりに呑気。そして、陽気。ロシアのコサック一族の末裔として満州に生まれ、サンボの超人として数々の伝説を打ち立ててきたビクトル古賀。今回は、そんな彼を師と仰ぐ平直行とともに超人安住の地・浦賀を訪ね、ビクトル行きつけの居酒屋で常連客も巻き込んだのほろ酔い座談会を開催。まさに「強くてバカ」こそが世界最強である。ゴメンね。